

八田知紀 ちつぎ 歌入。寛政十一年九月十五日薩摩國生れ、明治八年九月二日歿（二七九—一八七三）。幼名彦太郎、通稱喜左衛門。號桃岡、藤原知紀。文政八年京都薩摩藩邸留守居下役、のち近衛家に出任。この間香川景樹の門に入る。明治元年皇學所御用掛、五年宮内省歌道御用掛。高崎正風、黒田清綱等はその門下。海上胤平著『八田知紀歌集評論』（明治二十七年九月十五日文學書院）、種彦清海編『八田夫人翁記念』（内題「八田夫人五十年祭記念誌」大正十一年十月、千八百鹿兒島・祭典委員会）等がある。

著書 『このふくま』。初編』（弘化四年正月出雲寺万次郎・加賀屋善藏發行）、『桂園遺芳』（合著・葛山健編、明治二十四年十一月、千六百博文堂）、紀行『白雲日記』（久木田英夫註、明治二十六年七月二日久木田英夫刊、富山房）、『明治上六歌仙』（合著・大町五城編、大日本歌道奨励會）、『八田知紀歌集』（鎌田正夫編修、大正二年十一月五日日本歌壇新聞社）等。

